

日常はEVとして走れ、いざというときには エンジンも使える安心感、それがクラリティ PHEVです。

クラリティ PHEVは、これまでエンジン車やハイブリッド車にお乗りいただいていたお客様にも

違和感なく選んでいただけるよう、走りの魅力と快適で便利な使い勝手にこだわるとともに、

PHEVにとって特に重要なEV走行距離については、日常の使い方をほぼカバーする能力をめざして開発しました。

いざというときにはエンジンでも走れる安心感も備えた電欠の不安がないEVという位置づけとしています。

さまざまなシーンでの使用を考えて、カタチもクルマの基本形であるセダンとし、空力性能を高めた先進的なエクステリア、

座り心地や手触りの上質さにも磨きをかけたインテリア、大きく使い勝手のいいトランクスペースなど、

クルマとして普遍的に持っているべきものを、先進のメカニズムと高い次元で融合させました。

また、モーターで走る電動車ならではの応答がよく力強い加速や静粛性、低重心でドライバーが自由に

操ることができるダイナミック性能、走行モードの切り替えによる多様な走りなど

クルマ本来の魅力と楽しさを十分に味わっていただける、Hondaの考えるPHEVの価値を余すところなく実現しています。

クリーンカーとしての電動車は、普及させなければ意味がない。その考えのもと、何も我慢することなく

新たなクルマの魅力を満喫できるクラリティ PHEVこそ、Hondaの電動化への方向性を明快に示す一台です。

開発責任者 清水 潔

●クラリティ：CLARITY(英)は「明快」の意。クルマの電動化にチャレンジする
Hondaの方向性を明快に示すという意志をこめたネーミングです。



清水 潔 (しみず きよし)

(株)本田技術研究所 四輪R&Dセンター 主任研究員
1984年、(株)本田技術研究所入社 エンジン開発、電動パワートレイン開発を経て、
1997年よりFCV/パワートレイン設計を担当。
2005年、FCV/パワートレイン開発室マネージャーに就任。
2007年、Honda R & D アメリカズに駐在しZEV(ゼロ・エミッション車)のリサーチ業務に従事。
2013年、クラリティシリーズのLPLに就任。
趣味はヨット、愛艇名は「DREAM QUEST」(夢の探求)
愛車はN-BOX